まちづくりワークショップ

市民ｼﾝｸﾀﾝｸ（株）ひとアンドまち研究所　工藤秀美
まちづくりコーデイネーター
ＮＰＯインストラクター
コミュニテイビジネス

１．なぜ今、住民参画による地域づくりなのか

２．合意形成のためのワークショップ

３．ワークショップによる合意形成

４．市民・職員・企業等の協働の大切さ

協働推進まちづくり研修

市民シンクタンク
（株）ひとアンドまち研究所
代表　工藤　秀美

1　なぜ今 市民協働型まちづくりなのか

①多様化する市民生活に対する行政サービスの限界が指摘されている。

②市民と行政がお互いに信頼しあえることが求められている。

③投票行動だけに依存しない自治への参画機会が求められている（行政と市民の一方的な関係）

④低成長成熟時代における新しい行政及び地域社会のあり方が問われている。

⑤分権化によって自治体独自の政策形成が可能になってきた。

●住民は何を求めているのか

（時代のテーマ）

①国際化への対応
②高齢化への対応（高齢社会、人生 80 年時代）
③環境問題への対応（地球環境への意識の高まり、快適な都市環境づくり）
④市民意識の成熟化（ライフスタイルの多様化、豊かな自由時間の増大（退職者））
⑤高福祉社会への対応
⑥防災への対応
⑦景観、魅力づくり
⑧少子社会
⑨地域自治づくり（市民協働の地域づくり、まちづくりへの参加、会社人間から地域人間へ）
⑩生涯学習社会
⑪成熟社会
⑫先行き不透明
⑬バブルの崩壊

■まちづくりと住民参加

①戦争、戦後復興期
②高度成長期
③意見反映期（反対運動）
④住民参加期
⑤自主活動展開協働期

2　広がる参加と協働のまちづくり

（1）参加の方法が問われる時代に----------

①住民が主体となって地域づくりに貢献する　----------　・環境保全
取り組みが広がっています　・芸術・文化・教育活動
・福祉や介護サービス活動　等々

②住民参加はスローガンでなく、住民の自治意識の高揚につながるものでなくてはならない。

（2）参加や協働の意義----------

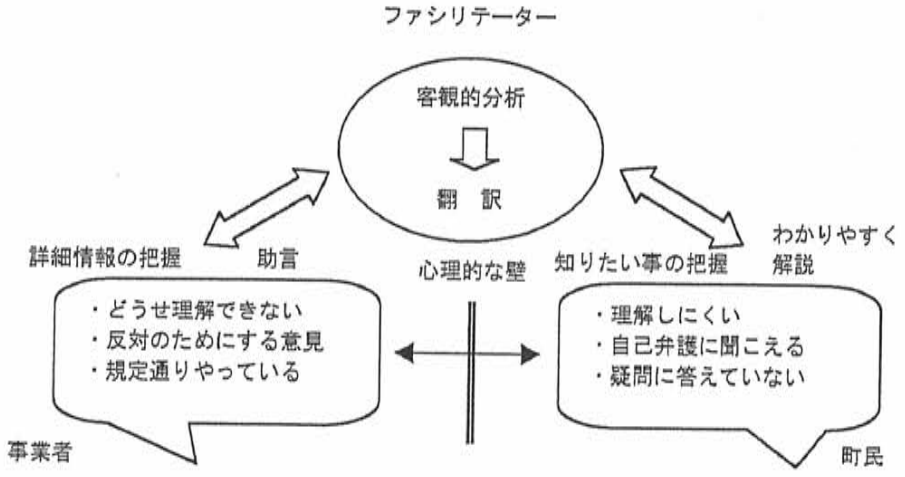
①参加・参画・協働・パートナーシップ　等々の混乱

②住民と町民

③参加や協働の課題　----------　・行政手続きとしての・・・
・住民と町民の主体的力量不足
・行政や住民・町民、企業の対話不足
（対話のマナーや工夫が未習熟である）

（3）コミュニケーション・ギャップ----------

①コミュニケーションの実態　----------　・ガス抜き
・一方通行のやり取り
・心理的な壁
・サイレントマジョリティ（もの言わぬ多数派）



3 市民協働型まちづくりの推進にむけて

①まちづくりとは ――――・地域住民の自覚が必要（誰のためか、目的は）
・常に住民が関わっていくことが必要（ことの共有化）
・地域住民での合意形成が必要（意見を出す、協調）
・まちづくりの推進によろこびを（楽しく進める）
・まちづくりは地域自治（コミュニティ）
・まちづくりはエンドレス（続けることが大切）

②まちづくりの４つの視点

・福祉の視点（高齢者、障害者、外国人、こども等の社会的弱者への配慮）

・環境の視点（地域環境、エコロジー、環境共生型まちづくり等への配慮）

・防災の視点（地震災害、火災、風水害、防犯等への配慮）

・景観の視点（共有空間としての街並み、風景づくりへの配慮）

③市町村のまちづくり型の職員のしくみづくり

・まちづくり型職員づくり--------資質の向上

・まちづくり型職員の研修
（住民の力を引き出す、常に話し合う、正しい情報を伝える、住民皆で係わる、守り育てる組織を
----まちづくりを仕掛けていく能力の育成
・まちづくり職員の交流（関係各課・市町村間）
・国内外のまちづくり先進地の視察研修

・役所の仕組みをまちづくり型へ

・地域の特性を良く知る
----空間、文化、ひと、資源材料、仕組み等
・お互いの立場を理解し合う
----意見を出し合う、分かり合う、意見の調整
・まちづくりを楽しみながら進めるための「しかけ」を
---イベントの開催、協力者には感謝の気持ちを
・住民がまちを創り上げる仕組みをつくること
----地元活動グループの意見や活動をくみ上げる
・住民のやる気を出させる
・まちづくりの推進によろこびを（楽しく進める）
・常に住民が係わっていくこと（ことの共有化）
・地域住民が話し合い、住民・企業・行政の役割分担を
----パートナーシップ型で
・まちづくりの目標をはっきりと持つこと
----課題・特性を共有化、将来イメージを話し合う
----地域の総合的なまちづくりイメージを持つこと
・まちづくりの交流を促進し、ポジションを確認する

4 行政等の改革が求められている

①行政側の課題

- 各部署で関連する団体情報等の収集・整理と活用
- 職員の市民活動に対する理解の促進
- 住民ニーズ、ＮＰＯの実情・要望の把握と対応
- ＮＰＯとの協働拡大に伴う関係団体等との調整

②ＮＰＯ等市民活動団体の課題

- 行政情報へのアクセスと行政側に対するアプローチ
- 行政の立場や役割に対する理解の促進
- 財政基盤の安定化、人材の確保・育成
- 既存の市民活動団体・組織の連携・協力

③求められる改革

一方的関係から

自立的・協調的関係へ

④役割分担の明確化

行政は行政の立場、目的、役割があり、ＮＰＯはそれぞれ多様な理念に基づいた目的、役割がある。

行政と市民がそれぞれの担うべき役割を遂行するとともに、共通する目的を有する地域において協働を進める。

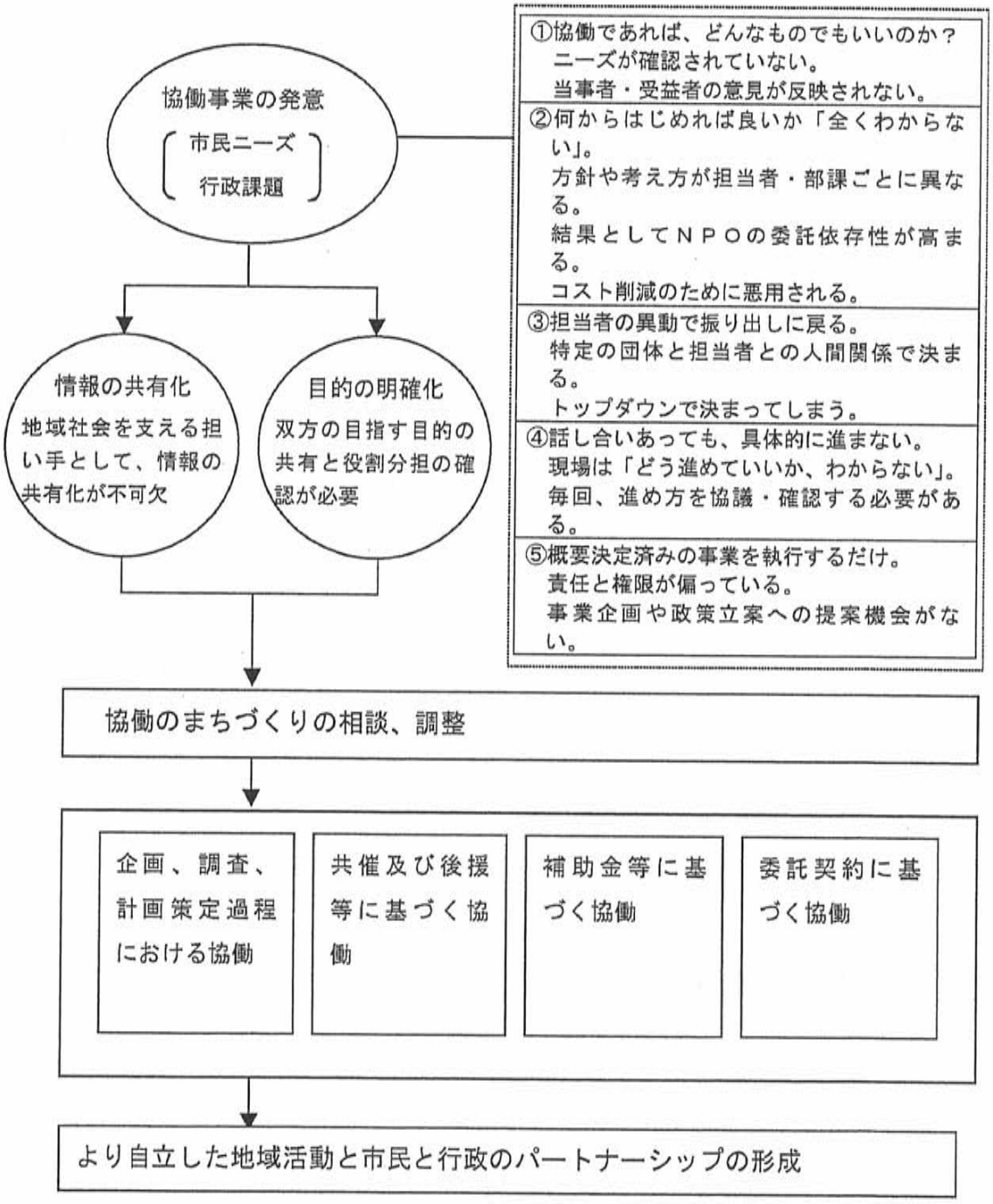
⑤公平・公正の原則の確立

どのような団体と、どのような方法で協働するのかなど、協働の相手方の選定手続の公開性・透明性の確保とともに、そのサービスが的確に提供されているか等の見直し・検討が必要である。

⑥より良い関係をつくる

- 対等で良好な関係をつくる
- 協働により可能な新たな市民サービスを発掘する
- 事業、制度を協働の視点から見直す
- 情報の共有化を図る（全庁的情報の共有）
- 市民活動担当窓口の充実
- 職員の意識改革を進める
- 人材育成・紹介・斡旋制度の確立
- 新たなニーズに対応した財政支援
- 企業との連携・交流の場づくり

5 市民協働施策の展開にむけて



6 市民・職員の市民力・会議力の向上にむけて

（1）自治を育てるツールとしての「ワークショップ」----------

①参加を呼びかけても集まらない ----------参加しやすい場づくり

（参加して良かったと思える場づくり）

②地域づくりにおけるワークショップの役割

・意思決定の手法としてあるのではなく --------・地域の課題に積極的に関わり。

・関わることで、気づき、学習し、

・そして、自治の担い手として育つ場である。

③カウンター・パートナー（対抗する相手）を育てること

（2）ファシリテーターの役割

ファシリテーターとは、一般的には参加型学習であるワークショップの進行役を指す場合が多いが、もともとは「促進する」「(物事を）容易にする」という意味の英語「ファシリテート」(facilitate) からきている。たんなる進行役ではなく、かといって知識や情報を与える“先生”でもなく、学習者一人ひとりがもつ知識、情報、知恵、アイディア、気持ちを出し合い、共有し、議論を深める学びの場づくりを促す役割をもつ人のことを指す。学習の場だけでなく、会議などで司会が話合いを促進する場合にもファシリテーターと呼ぶ。

（4）ファシリテーターの心得

①参加者の心得 ---------- ・気軽に、作業や会話を楽しむこと

（講演会や討論会ではない）

・何でも受け入れること

（他の参加者の話に耳を傾ける）

（他の参加者の意見を否定しない）

（異質と思っても意見を受け入れること）

・嫌なことには参加しない

（他の参加者の意見を否定しない・邪魔しない）

②主催者の心得 ---------- ・傍観するのではなく、参加者の一員として

・結論を急がせたり、強引な誘導をしないこと

③ファシリテーターの心得 -------- ・ワークショップ等の趣旨と目的を簡潔に説明する

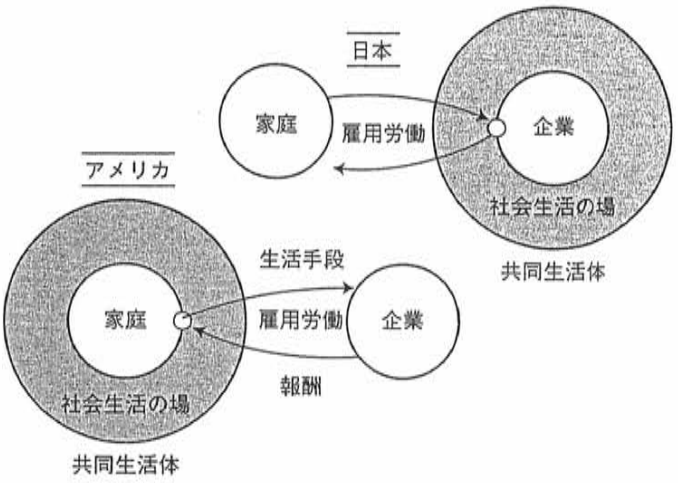
・当日の獲得目標をわかりやすく説明する

・ワークショップ等の進行中は、参加者の様子を見ながら、ヒントや手助けをし、発言や作業を促しましょう

〔 参考資料 〕

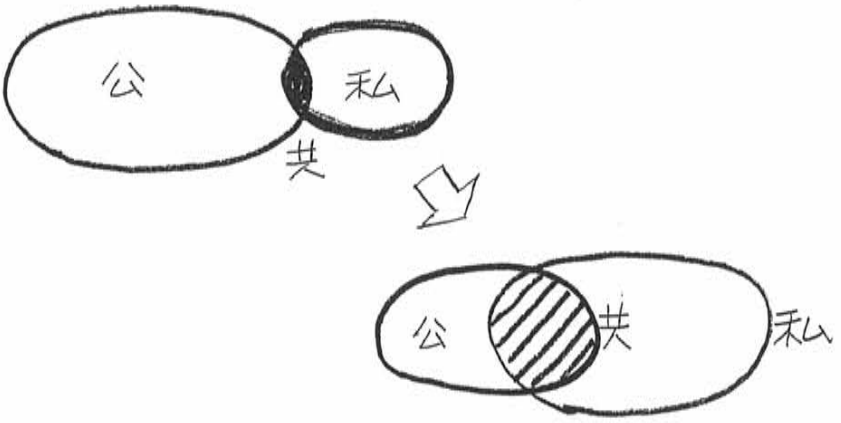
1. 日本とアメリカにおける家庭と企業

日本の経営・アメリカの経営における生活モデル



（津田真澂『日本的経営の論理』より）

2. 公共私 論について



3. ボランティアに参加する動機について

ボランティアに参加する動機

ボランティアが無償で活動に参加する動機については、多くの調査の結果、次のようなことが挙げられます。

(1) 組織の掲げるミッションに対する貢献意欲
(2) 自己の利益でないものに貢献したいという精神的充足
(3) 人間的触れ合い、仲間の発見
(4) 異質な環境の人々との新鮮な出会いや経験
(5) 組織設立や運営への興味
(6) 人脈づくりや就職機会の発見
(7) 世間体